

晴れた日の庭で、愛車「ミライース」を洗車している最中、ホースから噴き上げた水しぶきの中に、鮮やかな虹が現れました。洗車用ノズルは、霧状のミストから勢いの強い直射、細かなシャワーまで、水滴の大きさや散布方法を切り替えられるタイプです。この日は細かなシャワー状の水滴が広く舞い、太陽を背にして散水するという自然の虹と同じ条件が偶然そろいました。写真には、色鮮やかな主虹が弧を描いて現れ、その外側には淡くもう一本の副虹まで確認できます。家庭での洗車中に副虹まで見られる機会は決して多くなく、水滴の量や大きさ、太陽高度など、複数の条件が絶妙に重なった瞬間だったことがわかります。

虹は、太陽光が水滴の中で屈折し、内部反射を経て再び屈折することで生じます。主虹は水滴内で一度反射した光によってでき、外側が赤、内側が紫の色の並びになります。一方、副虹は光が水滴内部で二度反射して生じるため、主虹より淡く、色の並びも逆転します。この写真でも、主虹の外側にぼんやりと現れた副虹は、紫が外側、赤が内側となっており、自然界と全く同じ光学現象が庭先で再現されたことを示しています。洗車という何気ない日常の作業が、光の屈折や反射、分散という理科で学ぶ現象を目の前で体験できる、思いがけない実験の場となりました。

さらに、この虹が美しく見えた理由の一つは、背景が暗い林になっていたことです。虹は背景が明るい空よりも、木陰や森林など暗い場所を背にすると色彩のコントラストが増し、格段に見やすくなります。この写真でも、北軽井沢の庭を囲む樹林が天然のスクリーンとなり、主虹・副虹ともに輪郭が際立っています。家庭用ホース一本でも、太陽との位置関係、水滴の大きさ、背景の明暗という条件を意識すれば、美しい人工の虹を作ることができます。身近な洗車のひとときが、自然界の光学現象を体感できる貴重な観察機会となった一枚です。

(2026 年 7 月中旬／北軽井沢)

